

東北地方 1か月予報

(5月27日から6月26日までの天候見通し)

平成18年5月26日
仙台管区気象台発表

<特に注意を要する事項>

東北南部では、太平洋側を中心に5月上旬後半から日照時間の少ない状態が続いています。
東北地方は今後1か月平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。

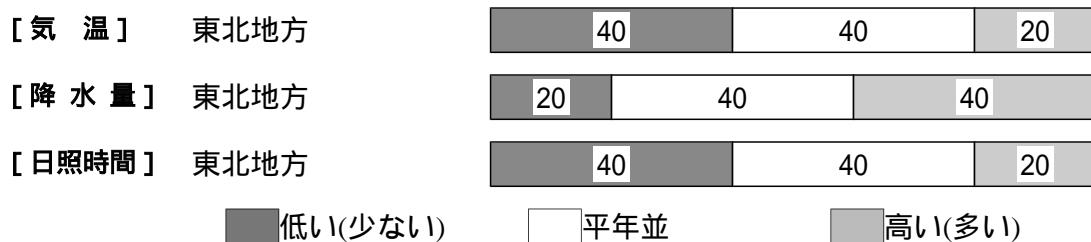
<予想される向こう1か月の天候>

天気は数日の周期で変化しますが、低気圧やオホーツク海高気圧の影響を受けやすいでしょう。東北地方は平年よりも曇りや雨の日が多いでしょう。

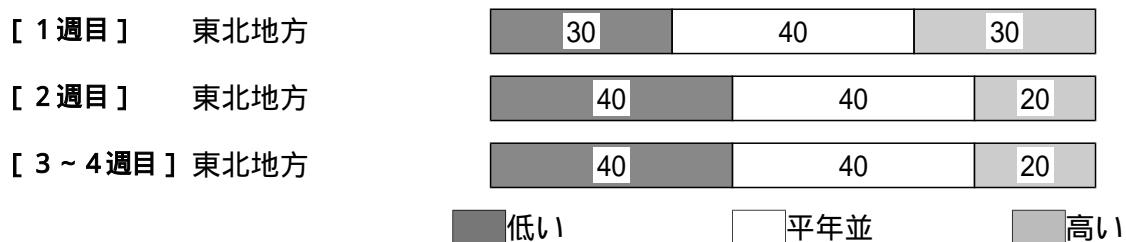
向こう1か月の平均気温は東北地方で平年並か低い、降水量は東北地方で平年並が多い、日照時間は東北地方で平年並か少ないでしょう。

週別の気温は、1週目は東北地方で平年並、2週目、3~4週目は平年並か低いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 5月27日(土) ~ 6月26日(月)
1週目 : 5月27日(土) ~ 6月 2日(金)
2週目 : 6月 3日(土) ~ 6月 9日(金)
3~4週目 : 6月10日(土) ~ 6月23日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報:毎週金曜日 14時30分 次回は6月2日
3か月予報:6月22日(木) 14時

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	16.8	164.3	166.9	15.5	16.4	17.4
新庄	18.2	119.9	168.9	16.6	17.8	18.8
若松	19.3	100.2	176.1	17.8	19.0	20.0
深浦	16.6	107.9	193.7	15.1	16.1	17.3
青森	16.5	81.4	196.0	15.1	16.1	17.1
むつ	15.1	108.4	180.1	13.9	14.8	15.7
八戸	15.8	96.5	185.1	14.7	15.4	16.3
秋田	18.2	122.5	192.8	16.5	17.8	19.0
盛岡	17.6	110.2	167.6	16.0	17.3	18.3
宮古	15.7	109.8	158.0	14.6	15.3	16.2
酒田	18.8	119.2	192.7	17.2	18.4	19.5
山形	19.1	91.6	173.7	17.7	18.8	19.7
仙台	17.9	124.8	149.7	16.8	17.6	18.4
石巻	17.2	101.9	164.9	15.9	16.9	17.8
福島	19.6	103.2	151.8	18.5	19.4	20.0
白河	18.0	154.2	142.7	16.8	17.8	18.5
小名浜	17.9	139.4	157.9	16.7	17.5	18.4

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.5 ~ +0.3	84 ~ 109	92 ~ 107
東北日本海側	-0.5 ~ +0.2	78 ~ 113	95 ~ 107
東北太平洋側	-0.5 ~ +0.4	82 ~ 108	88 ~ 110

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.6 ~ +0.6	-0.7 ~ +0.6	-0.5 ~ +0.3
東北日本海側	-0.6 ~ +0.6	-0.6 ~ +0.5	-0.5 ~ +0.3
東北太平洋側	-0.7 ~ +0.7	-0.7 ~ +0.7	-0.5 ~ +0.4

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間ににおける各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1よりも多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成18年5月26日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(5月27日~6月26日):

天気は数日の周期で変化しますが、低気圧やオホーツク海高気圧の影響を受けやすいでしょう。東北地方は平年よりも曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並か低いでしょう。

1週目(5月27日~6月2日):

期間の前半は気圧の谷の影響で雨の日がありますが、期間の後半は高気圧に覆われて概ね晴れるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

2週目(6月3日~6月9日):

天気は数日の周期で変化しますが、低気圧やオホーツク海高気圧の影響を受けやすいでしょう。東北地方は平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並か低いでしょう。

3~4週目(6月10日~6月23日):

天気は数日の周期で変化しますが、低気圧やオホーツク海高気圧の影響を受けやすいでしょう。東北地方は平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

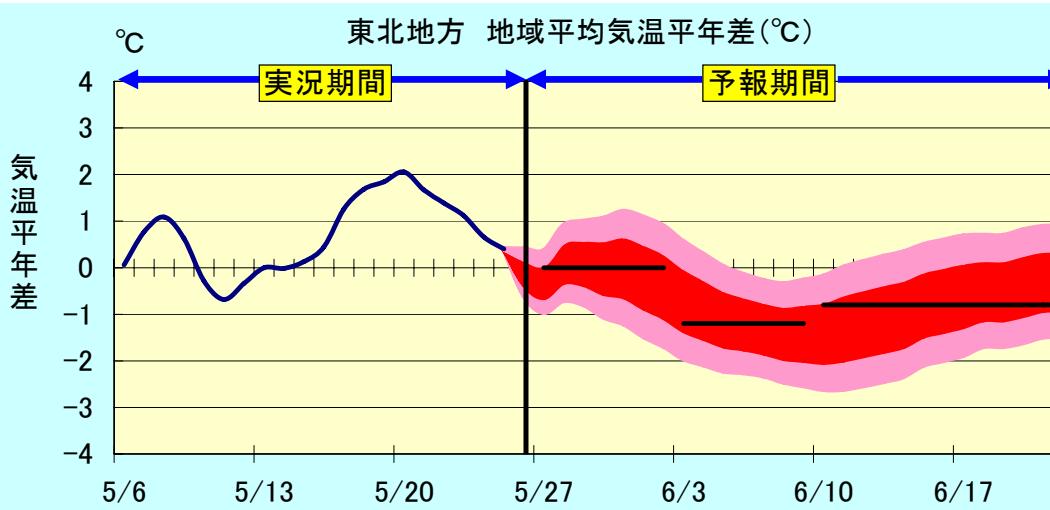
平均気温は平年並か低いでしょう。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	14.8日	4.3日	3.9日	6.6日
東北太平洋側	13.3日	4.2日	3.5日	5.6日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目は「平年並」、2週目、3~4週目は、「低い」と予測している。予報は、その他の資料から、2週目と3~4週目を「平年並か低い」とする。なお、数値予報の信頼度は大きい。

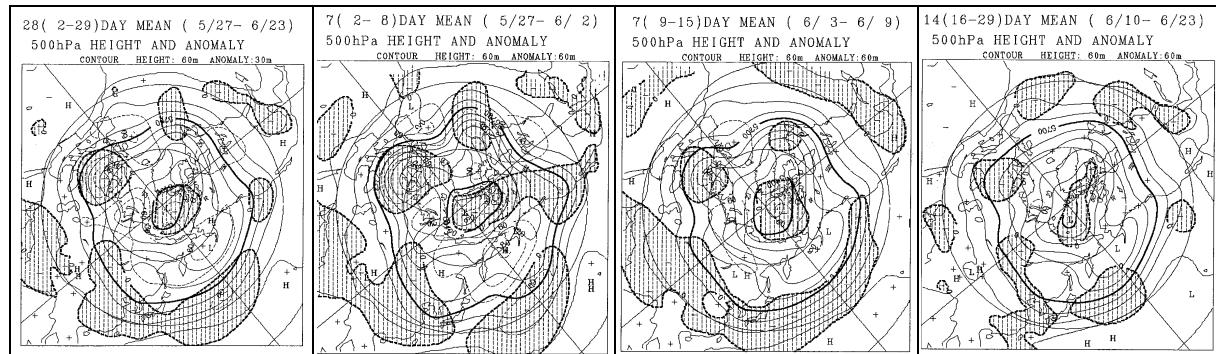


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、シベリアからアラスカにかけて明瞭な正偏差（暖気に対応）、中国から日本の南海上、太平洋中部にかけては負偏差（寒気に対応）で、極東域の偏西風の分流が明瞭。

1週目は、シベリアからアラスカにかけてと東日本以北は正偏差、中国大陸が負偏差。偏西風は分流傾向だが、日本付近の偏西風の流れは南成分をもつたため低気圧は発達しやすい。2週目は極東域の偏西風は引き続き明瞭な分流傾向。日本付近は大陸から太平洋にかけて帶状に広がる負偏差に覆われ、太平洋高気圧が弱いことに対応。3~4週目も偏西風が引き続き分流傾向。



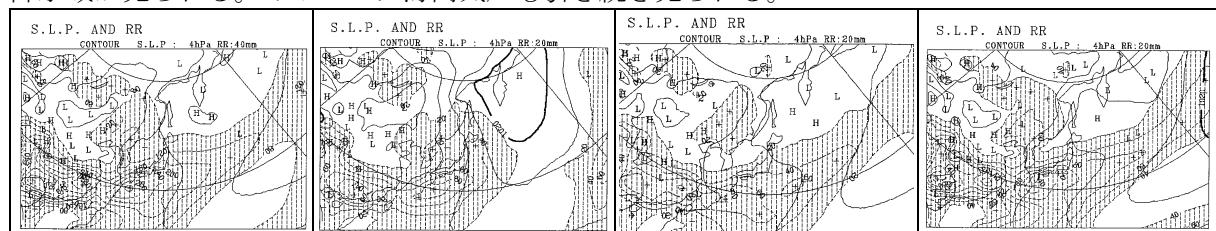
500 hPa 高度予想図（左から）1か月平均、1週目平均、2週目平均、3~4週目平均

実線：等高度線（間隔 60m）、点線：平年差（間隔は1か月 30m、週別 60m）、陰影部：負偏差域（一般に寒気に対応）

地上気圧と降水量：

月平均では、日本の南岸が相対的な低圧部で中国南部から日本の南岸に明瞭な降水域が帶状に広がる。オホーツク海高気圧が見られるが程度としては顕著なものではない。

1週目は、降水域は本州全域にかかる。カムチャツカ半島付近の高圧部が明瞭。2週目は、太平洋高気圧は弱まり、降水域は北緯 30 度付近まで南下。オホーツク海高気圧が見られる。3~4週目は、太平洋高気圧がやや強まり、降水域も北上。華南から本州の南海上にかけてはまとまった降水域が見られる。オホーツク海高気圧も引き続き見られる。



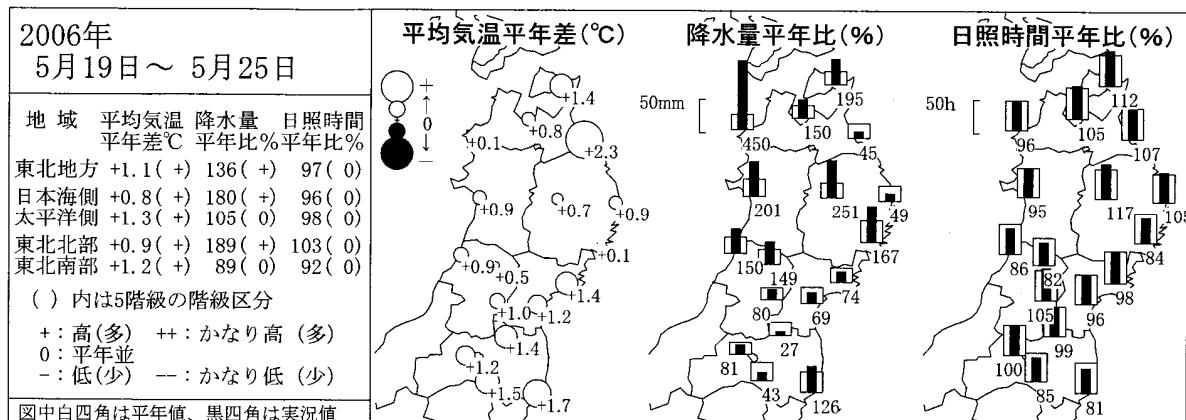
地上予想天気図（左から）1か月平均 1週目平均 2週目平均 3~4週目平均

実線：等圧線（間隔 4 hPa）、陰影部：降水域（1か月 80mm 以上、1週目・2週目 20mm 以上、3~4週目 40mm 以上）

4. 最近1週間（5月19日～5月25日）の天候の経過

この期間、低気圧と高気圧が周期的に通過した。低気圧は19日から20日にかけてと、23日に日本海から東進し、東北北部ではまとまった量の雨が降った。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北北部で多く、東北南部で平年並。日照時間は東北地方で平年並。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）